

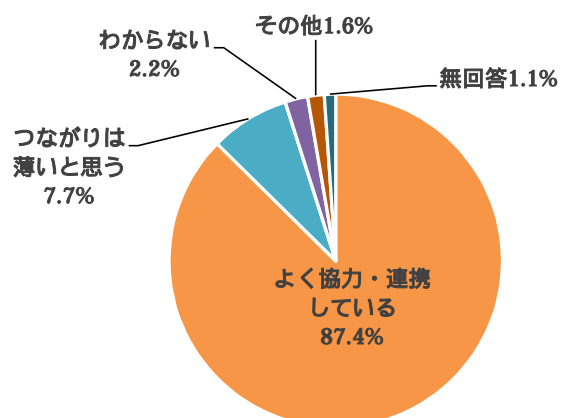
## 中学校選択制度に関するアンケート（学校評議員）

〔回答状況〕

区立中学校学校評議員 送付数 288 回答数 182 回答率 63.2%

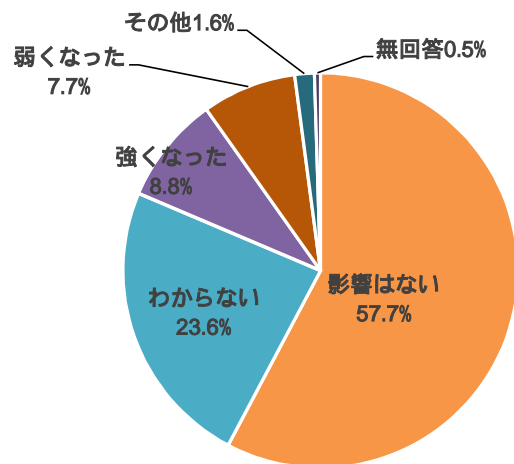
問1 あなたの地域の中学校は、地域(地域住民・町会・自治会等)とよく連携していると思いますか。(○は1つ)

1 地域と学校がよく協力・連携している	159	87.4%
2 地域と学校のつながりは薄いと思う	14	7.7%
3 わからない	4	2.2%
4 その他	3	1.6%
無回答	2	1.1%
計	182	



問2 あなたの学校では、学校選択制度によって、学校と地域(地域住民・町会・自治会等)とのつながりに影響があったと思いますか。( は1つ)

1 つながりが強くなった	16	8.8%
2 つながりが弱くなった	14	7.7%
3 影響はない	105	57.7%
4 わからない	43	23.6%
5 その他	3	1.6%
無回答	1	0.5%
計	182	

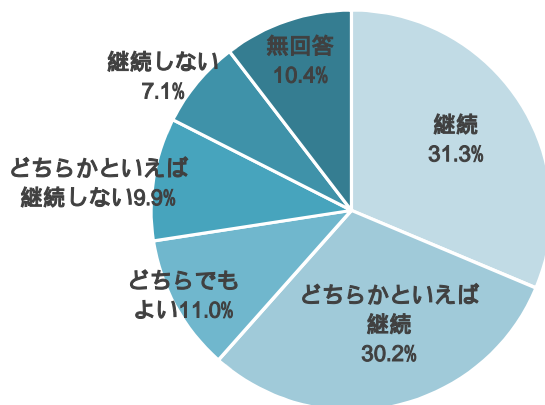


< その他の主な意見 >

- ・働く保護者が増えている中で、子供達の安心安全を守る為に、より多くの大人の温かい目が必要となる。学校と地域のつながりは、これから更に重要になると感じている。
- ・休日のイベントに、先生方にご協力いただくことが、以前に比べて難しくなっている。先生方も忙しく、働き方改革の面からも仕方ないことだが、学校と地域のつながりを深めていくには、先生方の協力が不可欠なところもあり、課題である。
- ・学校という場所を地域の拠点として考えてくれることが大事。
- ・地域とのつながりは年々薄くなる傾向にあるが、学校選択制に受入人数制(原則40人)が導入され、ある程度の抑制になっている。
- ・地域外の生徒が増加することによって、保護者の地域への関心が薄く、協力体制が弱くなっている。特に地域における催しなどへの協力を求めても、区域外の保護者が多いと参加を渋る傾向がみられ、小学校の保護者の協力度と温度差がある。
- ・地域の大人が子供達を見守るということは指定校・区域外に関係ない。分け隔てなく目を配ること。学校選択制により学区に関係なく学校と情報交換できる。

問3 学校選択制度を継続した方がよいと思いますか。（ は1つ）

1 継続した方がよい	57	31.3%
2 どちらかといえば継続した方がよい	55	30.2%
3 どちらでもよい	20	11.0%
4 どちらかといえば継続しない方がよい	18	9.9%
5 継続しない方がよい	13	7.1%
無回答	19	10.4%
計	182	



問4 学校選択制度について、ご意見がありましたらご記入ください。

【主な意見】

〔保護者、地域との関係に関する意見〕

- ・ 学校選択制の良い点も理解できるが、小、中の義務教育期間の地域のつながりは、大人になって共通の思い出となる。反面、いじめやその他で悩む人にとっては、選択制に助けられる人もいるのは事実。ゆるやかな改革で地域との交流を進められたら良い。
- ・ 学校選択制度は、学区域外からの通学生徒の災害時の安全性等の心配はあるが、その生徒の指定校にやりたい部活動が無いことや、どうしても一緒に学校に進みたくない友人がいるなどの状況にある生徒にとっては必要なものなのではないか。
- ・ 小中学生と地域のつながりは大切。中学生段階で地域から切り離してしまうのは早過ぎる。ただ、深刻化している「いじめ」等の問題もあるので、個々の事情によって地域外の中学へ通える制度はあって良い。
- ・ 義務教育ならば、学校、保護者、地域で力を合わせる事が当たり前。他地域や、学校を選ぶというのは、区立でなくても良い。生徒数の格差、今や校風まで変わっていき、地域力も弱る。
- ・ 登下校の安全面や、地域の人たちとの繋がりを感じてもらうためには、学区域内の学校に通うのがよい。
- ・ 地域との関連からは、同一町会の子どもたちが通えるのがいいと思っている。

〔子供に関する意見〕

- ・ 選択制度があることで学校が活発になっている。学区外の生徒が生徒会のリーダーになっていたりする。学区に拘らず、生徒が楽しめればよい。
- ・ 小学校から中学への進学時に、対人関係や施設の問題、部活動など、中学校を選択する必要がある生徒はいる。
- ・ 小学校でいじめなどがあった場合も、選択制度があれば無理なく他の地域の学校を選べる。また、部活動も入りたい部活動がある学校を選べる。
- ・ 子どもたちのための制度なので、今後も個々の能力を伸ばすことにつながり、良い環境が得られるために継続されることを願う。
- ・ 多方面からの生徒を受け入れる事により、違う考え方、新しい人との交流ができる半面、災害時の対応が難しく心配。

〔学校（教員）に関する意見〕

- ・ 3校の説明会に参加したが、配布される資料、説明の内容、先生方から伝わる意欲など、とても違いがあり驚いた。各学校で特色もある為、選択制度は意識がある。
- ・ 学区内での小、中学校の先生方の連携をきちんと取っていけば問題なく進学できると思う。小中一貫交流の成果を出して欲しいが、個人の希望、事情を優先し、選択出来る事も必要と考える。
- ・ 様々な小学校から集まる中学校は刺激があって良い。しかし、小学校からの引き継ぎ（特に課題のある家庭）をする上で、難しいところがあるのではないかと。現場の先生方の意見を聞き、先生方の思いに寄り添いたい。
- ・ 各校が特色ある学校を作り、子どもがそれにあった学校に行けることは問題ない。しかし、子どもや保護者に問題があった場合の学校の対応が大変になるのではないかと思う。
- ・ 学校選択制度があるので、もっと各校がPRしてもいいのではと思う。

〔学校規模、教育内容に関する意見〕

- ・ 学校選択制度は、各学校の教員の「見られている」という意識を芽生えさせ、教育内容の工夫や充実につながる。また、保護者も自らが各学校の教育内容等を検討することが不可欠になり、親の教育機会という側面もある。
- ・ 一人一人の生徒が、学校に行こうと思う様な環境作りが出来ると良い。区立なので差が出てはならないが、各校の特色を生徒が理解し、選択できると不登校が少なくなると思う。
- ・ 選択制度による生徒数の偏りが出来ているのは確かなので、条件付きの選択制にするのが最良ではないか。
- ・ 選択制があるということは良い学校と悪い学校があるという前提のもとに選択される。学校のそれぞれのカラーがあることは良いことだが、教育内容はどこでも一緒でなければならない。
- ・ 過少規模校はここ数年、毎年新学年のクラス編成に苦慮している。隣接する学校の卒業生は毎年50名を超えている。学校選択制度にメリット、デメリットはあるのだろうが、過少規模校に関しては、この制度の弊害が生じているとしか思えない。
- ・ 選択制度は、子供達が部活や校風から自分で選べ、意欲につながることは良いことだが、学力レベル、部活のレベルに格差が広がる懸念がある。

- ・ 教員の異動により部活の存続が難しくならないような工夫が必要。

〔受け入れ人数、抽選等の制度に関する意見〕

- ・ 各校 40 人としているが、施設の規模に応じた定員にしてはどうか。
- ・ 交友関係の一新を図りたい生徒等（いじめ等の問題の対処）は、選択できるように、受入れ人数を半分にする等して、学校選択する事情がある生徒を優先する位でよいと思う。
- ・ 区全体ではなく、学校から数キロ以内に居住など、ある程度基準を設けるのはいかがか。
- ・ 抽選になった場合、外れた時はショックがある。確定の時期も遅いので、指定校と選択校両方の説明会に出る必要や制服の採寸があり、心が落ち着かない状況になる。このような点から、選択制をやめるといことも賛成である。

〔その他の意見〕

- ・ 強く継続希望。従来の学区分けとなると弊害が出るが（不便さ等）、現状のまま継続であれば少なくとも戻すことによる弊害は出ない。
- ・ 様々な要因で学区外を選択する人がいると実感している。制服の好みや部活の有無などで選択するケースと、対人関係など、あらたな場所を求めるケースもある。学校選択制度があればどのようなケースでも受け入れられ、学区外に入学しても違和感を感じさせないのは大きなメリットである。他学区に進学した家庭から、学校の情報や状況を聞く機会もあり、メリットがある。
- ・ 不登校の生徒が増えているのに選択制度をやめてしまったらもっと増える気がする。
- ・ 部活動のある、なしで選択している生徒が多いと聞く。生徒数が減少していく中で、部活動は個々の学校でなく数校が集まり、部活を行っている学校へ生徒が行くようにしたらどうか。
- ・ 選択制度があることはいい。しかし、それによって生徒数に偏りが生じ、部活動の数が減少や行事等に支障があることに対しては、何らかの対策が必要。
- ・ 小学校での人間関係やいじめ等、環境をリセットして中学校に通学できるケース等には、有効な制度。しかし、学区域外の学校へ進学するにあたり、小中学校間の情報の引継ぎが不十分で、進学先が困るケースもある。登校支援シートもあまり有効に活用されているとは思えない。
- ・ この制度には、メリット、デメリットがあり、地域性との問題もあるため結論を出すのが難しい。検証委員会にて導かれた結果を基本に進められたらいいと思う。